

教育長賞

伊東 彩人(いとう あやと) 松枝小 3年生

作品名:いっしゅんは、おもしろい

図書:そうだったのか!しゅんかん図鑑

ぼくは、しゅんかん図かんという本を読みました。この本には、人間の目では、見られない「しゅんかんのすがた」が出てきます。

ぼくは、目で見ることができないものが、すきです。きっかけは、プレゼントでもらった、けんびきょうです。けんびきょうは、目では、見えない小さなものを大きくしてくれます。たとえば、コケの中のクマムシを見つけたり、田んぼの水からミジンコを見つけられたりします。生きものいがいにも、やさいのかわ細ぼうや、かたくりこやさとうのつぶを見ることもできます。目に見えなくても生きている生きものがいたり小さなものにも一つ一つかたちがあることに、とてもワクワクします。

しゅんかん図かんに出てくる、いろいろなものの、しゅんかんのすがたは、ぼくが今まで考えたこともないものでした。ドッジボールをゆかになげつけた時に、あんなにボールがつぶれているなんて思ったこともないし、トマトが水にしずむ時の水しぶきのかたちや水の中の空気のあなのことをそうぞうしたこともありませんでした。

しゅんかんのすがたを見ることは、今のぼくには、とてもむずかしいことです。でも、しゅんかんのすがたをそうぞうしたり、考えたりすることは、できます。そして、それは、とてもワクワクするし、楽しいことだと思います。自分で考えたしゅんかんのすがたが本当のすがたとは、ちがっていてもなにかおもしろい発見があるかもしれません。目に見えない、いっしゅんのできごとだからおもしろいし目に見えないからいろんなことをそうぞうすることができます。

これから、この本にのっている、いっしゅんのすがたをおもいうかべていろいろなものを見れば、毎日の生活が少し、今までとちがうようにかんじると思います。目に見えない小さな生きものせかいや、ぼくたちが気づかない、いっしゅんのせかいは、見えないだけで、見ていないだけで、見ていないだけで、たしかにぼくの

ちかくにあるせかいです。ぼくは、これから「いっしゅんは、おもしろいよ。」と家
ぞくや友だちにつたえたいと思いました。そして、ぼくも大きくなったらいっしゅ
んのすがたを自分でさつえいしたいと思います。